

植物と人々の博物館メールマガジン

第 84 号 2022 年 2 月 1 日発行

2023 年は国際雑穀年



ロウバイが香り、ウメが咲き始めました。もうすぐ春ですね。Ado の CD 狂言を聴きましたが、あまりの元気さに圧倒されました。こうした若い才能が広く支持されることはこの国の希望です。恥ずかしながら、狂言のシテは知っていても、アドが脇役を意味することさえ知りませんでした。素晴らしい感性です。Ado の阿修羅ちゃんはドクター X のエンディング曲ですが、編集子は東帝大学フリーランス外科医ドクター X を見ている共感し、ドクター Y は既にいるので、僭称を Dr. Z (z i :、ジー、爺) にしたいくらいです。博士ちゃんたちの学術的な好奇心にも敬意と希望が広がります。情理豊かな子供たちが育っていてとても頼もしいです。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

- 1) 開館・作業予定日：冬季は休館します。ウィルスが収まったら、時々開館します。
- 2) 民族植物学ノオト： 第 15 号電子版は編集中で、2022 年 3 月発行予定です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。
<http://www.ppmusee.org/goods.html>
- 3) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。『環境学習原論』増補改訂版および『第四紀植物』を公開しました。本年は一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』の読み書きを再開し、順次公開します。これら 4 冊のまとめとして“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。発行予定：『降矢静夫書簡集』（降矢静夫・安孫子昭二）、『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）、これらは書き終えたら、電子出版にします。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載継続します。

5) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。ご寄付をいただき感謝しています。

郵便振込口座は下記です。講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会
口座番号：00100-2-665768

2.環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

講座運営の企画を行うために企画室を作ります。ご協力いただけるとうれしいです。ぜひ、ご連絡ください。セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。ご案内や資料（ZOOM の URL）などお送りします。

企画室事務担当 kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男あて

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りました。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。12 世紀ルネサンスの先駆けであったイタリアの原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が都市を旅しながら存在するだけでした。学ぶ意味や大学について改めて考え直し、再びルネサンスを日本から起こしたいです。このウェブ市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の協力（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。

○予定

第 5 回環境楽習会

日時：2 月 27 日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館および ZOOM（定員：会場 20 名、オンライン 100 名）

話題：（仮）自然との共生と地域の再生（30 分、座談会 60 分）。

話題提供者：渡辺隆一さん（信州 ESD コンソーシアム）

第 4 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：3 月 13 日（日）14：00～15：30

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場 15 名、オンライン 20 名）

話題：（仮）国連家族農業の 10 年

話題提供者：関根佳恵さん（愛知学院大学）、（30 分、質問 30 分、座談会 30 分）。

第 6 回環境楽習会

日時：4 月 24 日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館および ZOOM（定員：会場 20 名、オンライン 100 名）

話題：（仮）公園やみどりの価値や機能（30 分、座談会 60 分）。

話題提供者：佐藤留美さん（NPO birth バース）

○報告

第3回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：1月16日（日）。場所：カエルハウスおよびZOOM。9名参加

話題：「都市に残された農地の未来と課題」。話題提供者：高橋金一さん（農家）

3. 雑穀街道普及会：

FAO世界農業遺産申請のために、雑穀街道協議会への三年次企画を検討しています。ご意見をいただければ幸いです。

○ 報告

1) 1月15日に桂川・相模川流域協議会市民部会にオブザーバー参加して、協賛の検討をお願いしました。NHK甲府の櫻井さんから、中川さんと雑穀街道について取材を受けました。

2) 1月16日に日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）について打ち合わせ、再開予定です。具体的な企画は宮本さんが立案します。

3) 種子、栽培手引きの配布

播種、栽培したい方に少しずつ差し上げます。栽培・加工・調理法あるいは装飾用など必要に応じてお伝えします。栽培してくださる方は、費用はいりませんから、メールください。簡単な方法は次のサイトにあります。

4) 東京学芸大学創基150年記念の雑穀発泡酒の準備を続けます。

5) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpmilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければ幸いです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅さ

せないように継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

*ワノサト・プロジェクト

1月28日に、ワノサト・プロジェクトと桂川・相模川流域協議会市民部会の方々が上野原市長に面会し、元島田中学校を借用してエコ・ヴィレッジをつくる企画を提案しました。1月30日に、ワノサト・プロジェクトのコア・メンバーと打ち合わせをしました。植物と人々の博物館／雑穀街道普及会も志は近いので、3者協議会を始める方向で、話し合いを進めています。

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定: 詳細は下記ウェブサイトにあります。2月16日に総会があります。

~~~~~

**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村): 館長: 木下善晴、顧問研究員; 安孫子昭二

研究員: 木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ベトナム) ほか

公式 HP: 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行: 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事: 宮本透

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅** (山梨県小菅村):

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**: 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長: 黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当: 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真

